

昨日、隣家の車庫扉全開にて、駐車場の裏側にありし倉庫の中を大人四人かかりにて捨つべく整理をしたりき。さふ言へば丁度三年前、現在の奥澤の家に引越すため、ひと月掛かりにて家具等モノのを大いに捨つ事思ひ出す。白金臺の家はむやみに物入れのある建物にて、二十年近くの蓄積之あり。我家は海外も含め、三十回を下らぬ回数引越し重ねてあり。四十數年前は今日程運送手段無く、特に海外との輸送は大いに制限せられたり。従いて父の二度目の赴任地米國在住のころ、我が家には殆ど家具なく、寢室數多く、大きな應接間は空の倉庫に似通いがらんとしたり。父の仕事關係にて來客多く、家具は邪魔なりしかも知れぬと記憶せり。吾の部屋はベッドとナイトテーブル、勉強机とその椅子のみ。その代りに大きなウォーキング・クロゼットあり。吾は學生にて服も少なく、そこもがらんとしてあり。

年老いて母のモノへの執著は大きく變はる。中國の青島より家族と共に引き上げて來たりと聞き及ぶ。三十人近くの使用人も居住したる大きな屋敷なりて、殆どの荷物置き去りにしたりき。その記憶にはかに蘇り、老齡にしてモノを捨つる事の出來ぬ人になりたり。現在の家は前の家と同等の廣さあり。しかれども、入れ物少なければ、荷物も限らる。

奥澤に運び込むこと能はざるが故に、家具、食器、鍋釜、服など半分以上は捨つ。「こんなものありや」と思ふものは全て不要なりといふ事に氣附く。存在したる事だに記憶になき譯なれば、不要なる事ぞ明白なりにけり。

會社も大崎より自宅に移しかば、ファイル等産業廢棄物としてかなり處分す。書棚、デスク等は友人の大學教授の希望にて研究室に所望故學生を連れ、四トントラックにて移動させたり。奥澤に入るぬファイル類は現在も倉庫に入りたれば、半分以上を處分せむと考へたり。この倉庫の中にはトービン教授やクライン教授等ノーベル經濟學賞受賞者たちの論文等もあり、何を残し、何を捨つるやの選別しながらの作業せむと思ふ。二十年間共に働きたし仕事の相棒とその作業に當たる。腰を痛めぬやうに頑張らむ。

今生に別れを告ぐるとき、人間は世俗的なるモノはいづれも持ち行く事能はず。八十の聲を聞く前に、斷捨離は必要なりと覺ゆ。

(平成二十八年八月八日受附)